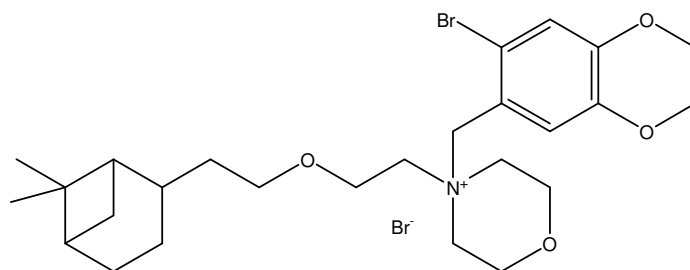


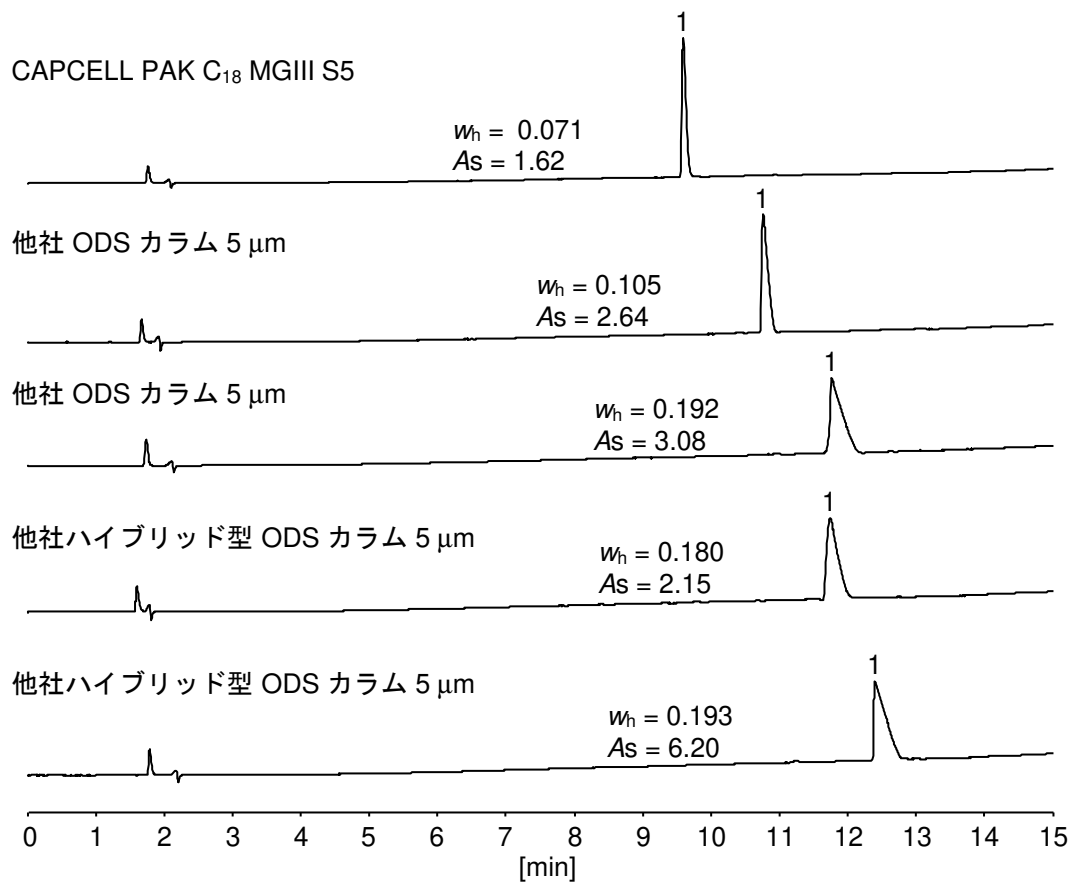
臭化ピナベリウム

Pinaverium Bromide

臭化ピナベリウムはカルシウム拮抗剤として腸の筋肉をリラックスさせ、腸の正常な収縮過程の回復を手助けする作用があります。その作用により、過敏性腸症候群の症状治療と緩和に効果がある薬剤です。古くから知られた薬剤であり全世界で販売されていますが日本では未承認であり現在処方されていません。この薬剤の特徴として構造の中にモルフォリンの4級アンモニウムイオンを有することが挙げられます。そのため逆相モードの分析ではカラム表面の残存シラノールの影響を受けやすく、ピーク形状が崩れる傾向があります。ここでは、CAPCELL PAK C₁₈ MGIII S5 (4.6 mm i.d. x 150 mm)、他社 ODS カラム及び他社ハイブリッド型 ODS カラムを用いて分析した例を示します。



1. 臭化ピナベリウム (100 µg/mL)
Pinaverium Bromide (M.W. 591.4)



【HPLC Conditions】

Column size : 4.6 mm i.d. x 150 mm
 Mobile phase : A) 0.1 vol% HCOOH B) 0.1 vol% HCOOH, CH₃CN
 B 10 % (0 min) -> 100 % (15 min) Gradient
 Flow rate : 1 mL/min
 Temperature : 40 °C
 Detection : UV 250 nm
 Inj. vol. : 10 μ L
 Sample dissolved in : 1 vol% HCOOH
 ※ 1 μ g/mL = 1 ppm